

## 名古屋工業大学巴会々報

## と も え

平成 14 年 5 月  
No. 36

名古屋工業大学機械工学科内 巴会本部  
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 Tel (052)735-5360  
Fax (052)735-5342  
ホームページ : <http://www.mech.nitech.ac.jp/tomoe/index.htm>

## 巻頭言

塩見副会長の写真  
(pdf では省略)

## 副会長 塩見正直

昨今、とりわけ中国の急速な台頭とともに、日本のコスト競争力の低下、国内空洞化の危機や、物作りに対する自信の喪失等が憂慮されている。

家電製品では、もともと海外生産が、90%以上のものも多くあったが、

以前の欧米向輸出拠点型に加えて、中国を中心に旺盛な現地需要型へと増加している。

一方、自動車は従来は、品質レベルも低いとされ、現地需要型として日本を含め欧米各社が現地化に取り組んでいたが、ここ一年で世界への輸出拠点としての中国の自動車産業の脅威が聞かれるようになった。20 世紀型の工業製品は、13 億人の巨大な人口と、その需要をバックにした強力な競争力に席卷され、日本の空洞化は避けられないように見える。

しかし、本当にそうなるだろうか。合せて、23 億人もいる中国やインドが、従来技術のまま先進国化し、大経済時代に突入したらどうなるか。日本の空洞化どころではない。世界的な食料不足、廃棄処分場容量の限界や地球温暖化による生物絶滅の危機が待ち構えている。

地球的規模で微妙なバランスに成り立っている地球が、大気温の上昇により、海水中と土壌中に固定化されている膨大な CO<sub>2</sub> とメタンの放出により、さらなる温暖化の暴走に入ること、何としても食い止めなければならない。

そのためには、化石エネルギーの使用を止め、再生可能な新エネルギーに、できるところから一日も早く切り替えていく必要に迫られている。

再生可能な新エネルギーは、太陽光、風力、水力やバイオマス等である。太陽光、風力、小規模な水力は、不安定な要素が多いので、電気エネルギーとして水を分解して、水素として備蓄しローカルな燃料電気システムを構成するのが良いと考えられる。バイオマスは、増産が必要な食料の残渣や動物の排泄物のエネルギー化、効率よく CO<sub>2</sub> を固定する草木を大規模に栽培しエネルギー化する一方、生分解プラスチック等廃棄物処理を容易にする生分解性工業材料として特に重要な分野である。

21 世紀型の重要な技術分野である新エネルギーの担い手である燃料電池、バイオマスやリサイクルの技術は、本気で開発が進められたのは、7~8 年の若い技術であり、日本が最も進んでいる得意分野でもあります。

私は、これらの実用化にむけて、日本の技術者が、技術革新を強力に押し進め、世界をリードすることが、日本の産業が活性と自信を取り戻すことができ、世界の生物の危機も救えるものと思っています。新しい産業システムを構築するためには、工学の各専門分野の先端技術を融和することが必要であります。

我が名工大では、タイムリーに一昨年 11 月に、名古屋工業大学研究協力がが発足し、最新の技術交流の場を提供しております。現在も、個人、法人の会員を募集しております。是非、ご活用頂き、幅広い視野に立った、巴会会員諸兄のご活躍を祈念し巻頭言とします。

(S34 アラコ会長)

## ’01 総会講演会資料

## 加工と環境

名古屋工業大学機械工学科教授

松原 十三生 (S36)

## 1. はじめに

加工に於ける環境問題は、地球温暖化、京都議定書、ISO14000や、ひと頃の我が国におけるダイオキシンの問題に関連して最近注目されている課題であります<sup>1)</sup>。

平成10年3月6日付けの毎日新聞で加工に使った機械廃油から大量のダイオキシンの発生したことが報じられ、この記事きっかけに一般市民に加工の環境問題が取り上げられるようになりました。

我が国ではつい数年前までは機械加工には大量の切削液を用いるのが常識でした。その理由は切削液の優れた加工性能向上性にありました。今まで加工油剤メーカーが研究、開発した種々の極圧添加剤、表面活性剤、油性剤等を切削液に加え、改良を重ねた結果であります。そのおかげで従来の加工の目標である

## 高品質、高能率、低コスト

が容易に達成できるために、加工液を時には毎分100Lを越える大量に使用してきました。

このような加工液には塩素や燐も含まれており、それを最高75気圧程度の高圧給油装置を用いて毎分100Lを越える加工液を加工点に掛け、加工の3大目標だけでなく、切り屑のスムーズな排除と工具及び被削材冷却にも積極的に使っていました。したがって、加工工場の中はこれらの切削液のミストが充満し、独特の臭いがするのが普通でした。

ヨーロッパでは早くから工場労働者の作業環境問題が取り上げられ、日本では想像もできない種々の規制が敷かれておりました。その結果、加工液についてもできるだけ量を減らす方向で検討して来て、特にドイツにおいては今から10年以上前から切削液を全く用いないドライ切削が進められてきました。

このような状況から国際環境規格 ISO14000も

制定された経緯がありました。しかし、我が国のメーカーではあくまでも加工の3大目標を達成することが最優先されていました。

3年前前になって、上記報道がきっかけとなって当時の通産省が塩素、燐などを含む加工液の製造、販売を規制する法規を制定し、現在のように各種製造メーカーも環境対応加工を重視するようになってきました。

現在は、我々の研究室はじめ、多くの企業、大学等で環境対応加工技術が研究されてきており、その成果発表も活発に行われるようになったのでそれらを簡単にここで紹介します。

## 2. 環境対応加工技術

現在提案されている環境対応加工技術を大雑把に分類すると次のようになります。

- i. ドライ加工
- ii. 冷風加工
- iii. セミドライ(オイルミスト)加工
- iv. ハイブリッドミスト加工
- v. MQL(Minimum Quantity Lubrication)加工
- vi. OoW(Oil on Water)ミスト加工
- vii. 工具冷却
- viii. 窒素加工
- ix. 自己潤滑性工具
- x. その他

ここではこれらすべてについての詳しい説明は省略していくつかを簡単に述べる。

ドライ加工、純冷風加工は空気のみを用いるので、それ自身の環境汚染物質の排出問題はクリアしている。鋳鉄加工ではドライ加工が普通であり、そのほかの高速切削、穴加工、研削加工、難削材加工等における工具摩耗、温度上昇、加工仕上げ面性状、加工能率等の問題等が残っています。

冷風加工は環境対応加工として一番早くから研究されてきた。冷風加工では大型冷凍機を用いて、-35以下の空気を加工面に吹き付ける方法で、従来の加工に比較して工具摩耗、加工面性状に関して優れている結果が既に出されて、実際の生産にも使われています<sup>2)</sup>。

現在は、冷風加工システムもかなり改善されてきていますが、空気冷却装置、及びそのランニングコスト、メンテナンスコスト等を考えた加工コスト、さらには結露および騒音の問題等がのこされてい

ます。

それに替わるもう少し簡便で低コストの環境対応加工法として考え出されたのが、従来の湿式加工に比べて加工液の量を極端に少なくし、使用油剤も植物油、あるいは合成エステルのような環境負荷の低い MQL 加工法 (Minimum Quantity Lubrication) である。

MQL 加工法は必要最小限の油量 (高々 1 時間当たり数 10cc) を用いる加工法で、用いる油剤はおおむね環境に優しい植物油、もしくは合成エステルであり、一般に使用される鉱油やエマルジョンはほとんど用いられません。

このように、MQL では従来の湿式加工に比べれば極めて微量の切削液を用いるだけであるが、研究の結果、その微量の加工液の工具に及ぼす潤滑作用が予想以上に大きいことが判り、多くの MQL 加工法が提案されてきた。

何故このような微量の加工液が従来の大量加工液を用いた場合と同等以上の効果を上げる事が可能かが MQL 加工法のキーポイントです。

このことは工具刃先の加工液の潤滑作用の本質に遡る問題であります。すなわち、切削のような 1000 を越す高温、数 GPa の高圧で、しかも毎分 100m/min 以上の高速の滑りを伴う工具刃先と被削材との厳しい干渉状態下の潤滑機構を取り扱うことが必要となってきた。この意味で、MQL は潤滑問題の本質を取り扱う研究領域と捉えることができます。

MQL は、極微量で十分な加工性能が得られるが、どんな油でもよい効果があるわけではなく、従来の鉱油やエマルジョンではそれは期待できません。効果があるのは、サラダオイル、菜種油等の植物油、合成エステル類等です。

鉱油と植物油の相違は、分子量の差もありますが、一番大きいのは極性の有無であり、前者が無極性で、後者が極性を有します。これが MQL の有効性を支配している大きな一つの要因であり、従来の切削液の潤滑作用との違いを表していると考えられています。

境界潤滑における潤滑剤については古くから潤滑剤の油性が大切であることは判っていましたが、植物油や動物の脂肪油等のエステルは優れた油性剤であり、工具や加工されたばかりの加工物処女面への物理吸着を容易にし、境界潤滑作用を改善し、

切削抵抗や工具摩耗に有効に作用すると考えられます。その場合、水とエステルの併用が吸着効果を高めるだけでなく、微量でも水の持つ気化潜熱による冷却作用をかなり期待できることがわれわれの研究室の研究結果から分かってきました。

### 3. OoW (Oil on Water) 法<sup>3)</sup>

MQL に関連して、我々の研究室で開発した OoW 法が上述の水と油の切削液としての効果を良く表しています。

OoW 法の基本は、名前の示すように、上記の植物油等の環境負荷の低い油を極微量 (1 時間当たり高々数十 cc) 用いて、直径 100  $\mu\text{m}$  から 200  $\mu\text{m}$  の水滴表面に油膜を付けた油膜付き水滴を用いて、それを加工面に吹き付ける方式です。OoW 法は単なる水滴と油ミストを吹き付けるのではなく、油膜付水滴を生成し、それを加工面や工具表面に吹き付けます。すると油がまず最初に確実に加工面や工具表面に付着し、それが境界潤滑作用に役立ち、一方水滴の水は加工物等には直接付着せず、すぐに蒸発してその蒸発潜熱で加工点の冷却作用をすることで

す。研究室ではそのために油膜付水滴生成用の特殊ノズルを開発し、それを用いて種々の加工条件で加工実験を行いました<sup>4),5)</sup>。その結果、切削抵抗、加工面性状、温度上昇等において優れた効果が確認され、実用化が行われています。

### 4. おわりに

今後環境対応加工法をさらに改良し、多くの加工に適用できる方法についてのさらなる研究が期待されています。

### 参考文献

- 1) 松原十三生:21世紀の課題 環境対応加工技術、機械と工具、45巻9号、pp110(2001)
- 2) たとえば、横川宗彦:冷風加工に関する研究、1999年度精密工学会学術講演会秋季大会講演論文集、pp97(1999)
- 3) 中村隆、松原十三生、糸魚川文広、丹羽小三郎:環境を重視した微量油膜付水滴加工液の研究、1999年度精密工学会学術講演会春季大会講演論文集、pp550(1999)
- 4) 栗田浩和、平成13年度名古屋工業大学大学院工学研究科生産システム工学専攻修士論文 油膜付水滴加工液の加工特性に関する研究(2002)
- 5) 近藤正満、平成13年度名古屋工業大学大学院工学研究科生産システム工学専攻修士論文 環境を重視した油膜付水滴加工液の研究(2002)

## 関 東 支 部 便 り

巴会会員の皆様には、急激に変化する社会、経済環境の下、それぞれの携わる分野でご活躍のことと推察申し上げます。以下に関東支部の活動を紹介いたします。会員各位の行事へ積極的参加ご協力をお願いいたします。

### 1. 関東支部の活動

毎号同じお知らせとなりますが、巴会独自で企画している行事はありませんが、名古屋工業会東京支部の構成メンバーとして、名工会行事（支部総会、ごきそサロン、エクスカーション、囲碁、ゴルフ）に参加しています。またこれら行事の運営に、巴会幹事の方々に参画ご尽力頂いています。

昨年と同じく、これら行事内容を紙面の許す範囲でご紹介、巴会会員の参加を期待したいと思います。

### 2. 巴会秋の集い

名工会東京支部総会は、毎年一回 11 月に平日 18 時 30 分より虎ノ門パストラルに於いて開催され、巴会は「巴会秋の集い」を兼ね参加しております。昨年は、11 月 13 日開催され、母校機械工学科太田安彦教授(M40)のご出席を頂き、昭和 18 年卒業から平成 5 年卒業の会員 19 名の参加があり交流、懇親いたしました。平日開催のため、仕事の関係でご都合の付かない方が多いと思われませんが、数少ない在京同窓生との交流の場であり、同期の方、お知り合いの方誘い合わせて参加頂ければと思います。本年は、11 月 12 日(火)です。ご予約に恐れ参加いただければと思います。

なお、後日送付いたします参加申し込み「返信はがき」通信欄に巴会及び会員にメッセージがあれば、昨年同様「会員近況だより」にまとめ、関東支部在住の巴会会員全員に配布します。昨年も、約 530 名の方に送付いたしました。住所、勤務先変更についてもこの「返信はがき」に記入返信下さい。本部への連絡を致します。

### 3. ごきそサロン

同窓生の中から講師を依頼し、時流に合ったトピックについて講演をしていただき、勉強会

と会員の情報交換と親睦を深める会合で、以前巴会関東支部が「巴サロン」として行っていたものを、名工会東京支部主催の「ごきそサロン」として年 2 回 3 月、7 月第 2 水曜日 18:30～八重洲倶楽部にて開催します。巴会会員も気軽に多数の参加を期待いたします。本年 3/13 開催されたごきそサロンでは、全体で約 50 名の参加があり、内巴会会員参加者 13 名で大変盛況でした。

### 4. エクスカーション

名工会行事らしい内容を盛り込んだ、日帰りのバス旅行です。名工会唯一の家族同伴可能の行事です。年一回行われ、「ごきそ」に案内の記事が出ます。これは、土曜、又は日曜日に催されるので平日の同窓会行事に参加できない方は、是非参加下さい。本年は、5 月 25 日(土)「日本文化遺産をめぐる旅」です。「ごきそ」3 月号にお知らせの掲載があります。人数に余裕があれば、開催間近でも受け付け可能です。

### 5. 囲碁

名古屋工業会東京棋友会との名称で、毎月 2 回第 2、第 4 土曜日の午後 1 時より八重洲倶楽部において月例の自由対局を、行っています。時間は、午後 1 時以降自由に来て対局して帰るといふ、緩やかな規則で行っています。毎年 10 月には、一泊旅行の囲碁大会を行っています。同好の方は、対局日に八重洲倶楽部に来場して、入会して下さい。

### 6. ゴルフ

東京ゴルフ会として、年 4 回定例コンペを催しています。入会希望の方は、C23 土田秀郎氏(自宅 044-555-3463)又は(k)北野豊氏(自宅 03-3467-5739)まで申込下さい。

### 7. むすび

以上の活動は、何れも名工会各単科会との共催ですが、巴会も重要な構成メンバーとして参加しています。巴会会員の方がこれらの行事を活用して、会員同志、また他単科会の方との交流頂けるよう多数の参加を願っております。長年、名工会東京支部役員をして頂きました M23 日下規矩雄巴会幹事が M44 村瀬幸男さんと交替いたします。日下氏の長年のご尽力に感謝いたします。(S35 星野 三郎)

## 関西支部便り

平成 13 年 9 月 29 日に行われました支部総会のご報告をさせていただきます。本部からも 3 名様のご参加いただきまして、平成 13 年度支部総会を無事終えることができ、まことにありがとうございました。

当日は、大変有意義な総会をさせていただきました。参加会員の懇親に加えて、内藤悦郎先生(S39)、中川平三郎先生(S46)のお世話で、つい 7 年前に新設された琵琶湖東岸の滋賀県立大学では学内説明に加えて、すばらしい環境のキャンパスを楽しませていただきました。同時に中川先生にご紹介いただいたJR嵐洞技術センターの見学。休日にも拘らず、一般では決して見学できないところまでご案内いただきました。センターの近藤所長様には大変お世話になりました。後ほどの懇親会にもご参加いただきました。大変感謝いたします。いよいよ、お待ちかねの懇親会、鮎料理「かわせ」では活鮎塩焼きから始まる「鮎づくし」、本当においしくいただきました。当地名産のブドウのお土産つきで皆さんニコニコ。関西支部の東の端にも拘らず、

遠い滋賀県びわ町に大勢の会員にご参加いただき、総会は下記のごとお蔭様で無事終了いたしました。

### 記

- (1) 参加者...36 名。上は青木昭二氏(S22)、下は芦田稔氏(H12)と幅広い年齢層にご参加。
- (2) 支部長挨拶...役員改選の話あり。
- (3) 会則改定...つづきまして、現巴会会則では役員は「理事、学年幹事」とあるが、役職名の簡素化と、本部役員との紛らわしさを避けるため、これを「幹事」と改め、幹事より、支部長、副支部長、会計監査を選ぶことを承認される。
- (4) 会計報告...会計担当の堀内満氏(S43)より平成 12 年度の事業報告を兼ねて決算報告。
- (5) 巴会本部副会長(学内)の太田安彦氏(S40・M 科教授)より、学内の近況報告あり。
- (6) 巴会本部代表理事 成田政敏氏(S35)より、巴会本部の近況報告あり。
- (7) 名古屋工業会大阪支部幹事の山本泰三氏(S39)より、名古屋工業会大阪支部「第一回見学会」と「総会」のお知らせあり。

(S43 福竹 泰彦)

### 受勲者

勲三等瑞宝章 岡村鐘雄(S23)

### 訃報

T09A 野村松千代 H08.2.21	S12B 三浦春旭 H13.5.28 (クラス代表)	S24 宇佐美昭夫 H13.5.2
T10A 天野 清 H13.12.5	S13A 楓 康一 H13.12.11	S25 平岩利夫 H13.10.15
T12A 笹岡 清 H13.12	S13 葛山 弘 H13.9	S26 江口 寿 H12.12.20
T15A 森島利七 H13.2.25	S13 佐藤剛一 H13.6.25	S28F 今村光雄 H14.1.29
S03A 菊池 英 H13.10.11	S15A 藤川澄隆 H14.4.2	S28F 長尾洋一 H13.6.25
S03A 笹尾音松 H13.5.3	S16 林 国雄 H13.1.27	S40F 松本鐵男 H13.1
S04A 田中稔 H13.10.26	S17 9A 渡辺猛郎 H12.9.2	S41G 斉藤泰彦 H12.1
S05A 野田庄三 H13.12	S18 9A 世古 勉 H13.10.9	S62 金城 智 H13.6.26
S07A 早川一之 H13.5.7	S20C 長谷川博康 H12.12.3	S63H 立松哲也 H13.5.12 (旧姓斉藤)
S07A 藤井一雄 H12.6.22	S20 山本 寛 H13.2.15	H02 FA 小林康彦 H12.11.20
S09 杉浦武雄 H13	S20C 吉村幸郎 H12.8.14 (旧姓鈴木)	H09 FA 石井良幸
S10A 羽田野尚 H13.8.24	S22A 宮島清一 H13.10.5 (旧姓杉浦)	
S10A 馬場 弘 H13.9.12		
S10A 堀場 勉 H14.1.21		

## ～ 同窓会だより ～

### 工峯会 (S16 年 12 月卒業)

平成 13 年 6 月 25 日 12 時～15 時  
ターミナルホテル アソシア 19 階にて

昨日かねて御連絡したとおりアソシアホテルにて実施しました。19 階の展望のよい部屋で別紙の名簿のように 33 人のうち 13 人参加して、あとは都合が悪いが、体調がよくなく欠席でした。

昨年 7 月高橋君の死去、今年 1 月には林国雄君の死去が今回の連絡でわかりました。冒頭に諸兄のご協力で黙祷をして冥福をお祈りしました。

皆様闊達なお話で盛大でした。支配人(シェフ)の大田さんの奮発フルフランス料理をワインとともに頂きました。料理の内容は

- 1 空豆のフライ
- 2 イカとホタテ貝のマリネ
- 3 桃のスープ
- 4 鮎の詰め物 2 色ソース
- 5 近江牛コースのステーキ
- 6 枝豆のサラダ
- 7 デザート
- 8 コーヒー

ワイン、ビール、酒等相当にお強い人もいました。

渡辺さんの寄稿文軍馬祥安号には私も涙がでたまりませんでした。人と動物との愛情物語です。どうぞご覧ください。(以下に記載)

渡部さんの句「フランスの、鮎料理、箸でたべ」たいしたものです。私より「健康管理の転ばない歩き方」を、「阿騎野路 大宇陀の浪漫紀行 及び 又兵衛桜の写真」など配布してお話しました。

皆様の次の再会を期して散会しました。

(S16 浅野由行)

~~~~~

### 「軍馬祥安(しょうあん)号」

渡部愛三

人と人との出会いもさることながら、人と馬との出会いも面白いドラマが生まれるものである。昭和十七年二月陸軍に徴集され、京都の第二十二部隊輓馬(ばんば)野砲隊に入隊、野砲兵となった。

輓馬野砲は馬六頭で砲車を牽引する。その動力である馬を使えるようになることが、第一番に要求された。これが馬との出会いの始まりであった。しかしその時まで馬を見たのは荷車を曳くのを見ただけで、馬の体を触ったことはなかった。全く馬の扱

い方を知らないのに、いきなり馬の轡(くつわ)をとって水を飲ませ、足を洗わせ、飼葉をやれと命ずる。古い兵隊が付ききりで、口やかましく怒鳴りまわし、一寸でも間違えば張りとはし、蹴とばして教える。二・三日でどうにか馬が扱えるようになったら、次は馬の背に毛布を置いただけの裸馬に乗る訓練、落ちては乗り、落とされては乗る。次は鞍を置く、但し鐙(あぶみ)は付けない。鐙なしで落ちなくなって、やっと鐙を付けて乗るようになった。この間僅か一過間、死にもの狂いで皆やった。妙なもので一週間程で乗れる筈がないと思っていたが、乗れるようになったから不思議であった。

馬にはそれぞれ名前が付けていた。鬣(たてがみ)に名前を書いた布切れが結び付けてあった。始めは馬の顔なんてものはどれも皆同じに見えた。ところが毎日の手入れのとき、訓練のときも、誰誰は何(馬の名前)を手入れせよとか、何に乗れと命令される。その都度云われた名前の馬を探す。顔は皆同じに見えるから鬣の名札だけが頼り、目の前にいても分からずうろろどうしであった。然し数日中に馬の名前が分かるようになり、更に体全体の特徴(毛並み)を覚え、その馬が何処にいても見分けがつくようになって、一人前の兵隊になった。そのようになって分かったのであるが、素人が一過間で乗れるようになる筈だ。馬がそのように調教されてあったのだ。俺達は自分で乗ったのではなく、馬に乗せて貰ったのであった。前置きはこれくらいにして、私が最初に乗るように命ぜられた馬が「祥安号」である。

その時は分からなかったが時がたつにつれて良い馬だと思うようになった。毎日同じ馬に乗ったり手入れをするのではなく、どれもこれも万遍なく手入れをし、乗った。「馬が合う」と云う言葉があるが、正にその通りで「祥安」は私に懐いたし、私も「祥安」を可愛がった。甘いものなかった時代であったが、たまに手に入った饅頭など、たとえ一かけらでも残して置いて、夜の手入れのときにこっそり食べさせてやったり、西瓜の食べ残りをやったりした。そんなとき「祥安」は日を細めて、首を摺り寄せて来た。何時何処で名を呼んでも振り向くようになった。京都第二十二部隊で三年一ヶ月一緒に暮らした。その問対人関係でいろいろと悩み、人の心の裏を見せつけられ誰も信ずる者がいなくなった。いくら上官に真心で仕えても無視され、可愛がった後輩に裏切られ、つくづく人間嫌いになって行っただが、

馬だけは皆正直であった。「祥安」は特別であったが、他の馬も可愛い奴、横着な奴、片意地な奴、利口な奴、足らぬ奴いろいろいたが、それぞれ手をかけ心から付き合えば、どれもこれも皆私に懐いた。どの馬も嘘は吐かなかった。

昭和二十年の三月広島へ転属になった。三年余りいた京都の部隊を出て行く時、对人的には何の感傷もなかったが、一緒に暮らした馬達と別れるのが辛かった。特に「祥安」との別れは辛かった。そのとき折悪しく何も持っていなかったので、唾を手の平に吐いて砥めさせて別れた。喜んで手の皮がむける程舐めた。そのとき私はほろりとした。

京都からは私を含め十二名有志者だけに送られて引率准尉に連れられ京都駅で空の客車に乗ったら、直ぐに車窓の鎧戸を降せの命令が出て、車の中は薄暗くなった。やがて列車は動き出したが、何処をどう走ったかさっぱり分からない。停っても駅名のアナウンスがない。何人かが乗り込んで来る。少し離れて座る。そして無言。処、処で停っては乗車して来る。見えないがどうも自分達と同じ兵隊らしい。京都を出て一日半もかかって広島駅に着き、各処から乗り合わせた兵隊と一緒に隊列を組んで、広島砲兵隊に入った。

各方面から集められた将兵全員が営庭に整列した。そこで始めて此の部隊は独立野砲大隊で、隊号は第一五五部隊であると告げられた。三個中隊に編成され私は第二中隊第一小隊第六班に配属され、続いて宿舎割り、割り当てられた兵舎に入り旅装を解いて一息つくのも束の間、班長がやって来て自己紹介をし、班員の名簿を読み上げ、呼ばれた者は一歩前が出る。その場で首実験。どれもこれも一癖も二癖もありそうな連中ばかりに見えた。私もそう見られたと思う。このことは後日判明したがそのとき受けた感じそのままの面々であった。

第六班は予備品車隊に充当されたので、中隊全員の兵器（砲車、弾薬車を除く）受領の命令を受けた。全員で受領に向いたが、馬具に関して、何が必要で、どれだけ定数なのか班長ですら分かっていないようであった。こういう場合出過ぎたことをするのは後々良くないと思ったから知らぬ振りをしていった。然し何時まで待っても埒が明かない。しょうことなしに手を出した。鞍、鐙、鞍褥（あんじょく）、頭勒（とうろく）、轡、手綱、鞍下毛布、その他車輛牽引用の曳き具、これが又種類が多く、数が多く、形が良く似ている締め革でも使用個所により長さが違い、穴の位置と穴数が違い、革幅が違う等、六頭立ての曳き馬で「前馬」「中馬」「後馬」用と各々

違い、更に正馬（人が乗る方）と副馬との違い等、どれ一つ違っても砲車は曳けない。それが一個中隊分だと膨大な数と量になる。それが一個大隊分置いてあるところから取り分け出さねばならぬ。各隊から来た連中も分からないのは似たりよったりだった。私は兵器係助手を二年間務めていたので、大概のことは諳んじていた。ぼやぼやしては日が暮れる。そこで、

「班長殿自分が選り出すが任すか」

「兵長、何とか云うたな、そう、渡部兵長分かっているならやれ、よし任した。皆聞け兵器の選り出しは渡部兵長に任した。各人勝手に取らずにこの兵長の指示に従へ」

そこで手取り早く、他の中隊がもたもたいるうちに全必要品を選り出し、種類別に員数をそろえ、再三数を点検して、引渡し係りの立会将校に報告し、許可を得て宿舎に持ち帰った。大砲と馬は他の班が分担して受領した。

宿舎に持ち帰った鞍曳具のうち第六班分だけ一番出来のよいのを選り出して分け、他は一山に積んで置いた。翌日の朝から各班の班長が兵隊を連れて受け取りに来た。このときも真ともに種類と員数が揃えられた班長は居なかった。どの班長も広島へ来るまでの原隊ではぐうたら、ぐうたら人任せにしていた下士官ばかりだった。何一つ実務の出来ないぐうたらばかり、連れて来た兵隊もやる気の全くない奴等ばかりだった。結局私が全部手伝って分けてやった。この一件で一躍有名兵長になった。そして中隊の兵器係になった。

兵器受領して三日目補充兵がどっと入って来た。臨時編成したばかりで、互に名前と顔が一致せず胸の名札だけが頼り、ましてや性格などまるで分からない処へ、更に軍隊なるものが分からぬのが入って来たから大変だった。その大変が静まらないうちに、山口県熊毛郡の小学校の臨時駐屯地へ追い出され、五月の始までに補充兵全員馬に乗れるように訓練し、柳井港より輸送船に乗ったものの、戦況思わしくなく、目的地の沖縄へ着けず、四国の高松に上陸、陸路四山脈を越えて高知県の土佐山田の山奥に駐屯した。

そんな或る日補充馬が到着したと云う知らせを傍受したので、見に行った。こんな処へ補充されて来るような馬は碌なものではないだろうと高をくくって、七・八十頭繋いである馬の前を見物気分で通った。思っていた馬より良い馬ばかりで喜んだ。毛並みの良い馬が目についたので近付いたら、その隣の馬が突然前足で地面をバタバタとかき、頭を高

く上げてブルブルと騒ぎだした。何かと近寄ったら、私の顔に鼻面をつけた。吃驚して離れたら、今度は肩口を軽く啜って引っ張った。不思議に思って馬の顔を見たら可愛い日をした憶えのある馬祥安だった。私は思いもよらぬ処で巡り合った嬉しさで、首を抱いてパタパタと叩いてやった。祥安は体全体で精一杯の喜びを表した。しまいには私の口の周りをペロペロと舐めまわした。暫く舐めさせて置いて、その後首を撫で、背を叩き喉元を搔いてやり、足周りを見てやった。

その光景を先程から見ていた馬周り将校が私の処にやって来て

「兵長、その馬お前の知っている馬か」

「はいそうであります。この馬は祥安号と云いまして、自分が初年兵の時から三年間京都の野砲隊で可愛がった馬であります。祥安もよく憶えていたとみえて、このように喜んで居ります」

「成る程兵長、お前に余程懐いているとみえるな。祥安とはどんな字や」

そこで鬣に結んである布切れを拡げて祥安と書いてあるのを見せたら、その中尉は納得した。私はどうしても祥安が欲しかったので「中尉殿この馬達の配属先はもう決定しているのであります。決定が未だなら。自分は第二中隊第一小隊第六班の渡部兵長であります。是非自分分隊へ配属して下さい、お願いします」

中尉は暫く考えていたが、手帳を出して改めて私の所属部隊名と官姓名を記した。

「よし。分かった。これ程離れていても再会を、これ程喜ぶ馬の姿を見たことがない。それとお前の可愛がりようもよう見た。俺が独断で決めた。中隊長には後から報告して置く。今直ぐ連れて行け。そして班長まで報告して置け。後の責任は俺がとってやる。お前らは良い兵隊とよい馬や。さあ邪魔が入らぬうちに早く行け。羨ましい奴等や」

このような経緯で、短い月日だったが一緒に終戦まで暮らした。戦後処理で軍馬は知らぬ間に何処かへ移動させられて、その後どうなったか、噂を耳にする前に土佐山田を後にして名古屋へ帰ったのでその後どうなったか不明である。

然し祥安は一生忘れられない友であり、よし俺が責任をとってやるから連れて行けと云うて呉れた中尉殿（名前がどうしても思い出せない、残念、罰当たりだ）も仲々の侍であった。その当時何かによらず責任のがれに明け暮れしていた幹部の中にもこのような人が居たことは私と祥安にとって幸であった。

## めずらしいクラス会

S22A 青木 昭二

平成 14 年 2 月 16 日(土)。JR 大阪駅前の中華料理「神仙閣」で、三友会(S22A)を中心に三学年合同のクラス会を行いました。

我々三友会のメンバーは、10 名が関西在住で、毎年クラス会を持っていました。が、近頃は高齢化が進み、元気に集まれるのは半数近くになっていました。そこで、数年前より名古屋からの有志メンバーに加え、一年後輩(紫友会 S23A)の関西在住者にも声をかけてきました。そして今回、それを更に発展させ、一年先輩(巴頭会 S20A)の中村さんをお迎えしたわけです。

巴頭会・三友会・紫友会は連続した同窓生でありながら、戦争の影響で、昭和 20 年 4 月より 9 月までの半年しか同籍できなかったという、大変な時代を経験して居ります。

当日は、やはり苦しかった勤労動員の思い出話も出ましたが、短いながらも同じ学校で勉強をした期間での、設計は川口さん、熱力は下山さん、鋳物の福井さん...とドンドン懐かしい先生方のお名前が話題に上り、やはり同窓生なんだな~と、あらためて感慨を深くしました。

写真の説明方々、当日集まったメンバーを紹介します。



後列左から、志村 満(紫)・石田 敏男(紫)・加藤 常夫(三)・森川 清(三)・青木 昭二(三)  
前列左から梶田 幸(三)・稲本 稔(三)・中村 武彦(巴)・岡野 勝敏(三)・津田 倅(三)

略号(巴:巴頭会 三:三友会 紫:紫友会)

## 学 内 報 告

### < 学生向け講演・懇談会 「OBは語る」会 > 報告 >

本年度も、OB の方による在学生向けの講演会が、平成 13 年 11 月 27 日(火)14:30~17:30、機械工学科 M2 教室で下記のように開催されました。3 年次学生を中心とした 130 名以上の参加者があり、M2 教室は満杯状態でした。

司会 巴会理事 学生会担当

長谷川 吉正氏(S43) 豊田通商(株)

講演 1 川口 康男氏(S45F) トヨフジ海運(株)

「自分の会社生活について」

講演 2 柴田 正彦氏(S44F) アイシン精機(株)

「会社勤め 30 年」

講演 3 大西 一 氏(S51H) (株)トヨタ自動車

「もの作り、ひと作り」

講演 4 中北 清己氏(H5J) (株)豊田中央研究所

「ディーゼル燃焼研究に魅せられて」

講演 5 仙石 武広氏(S61H) (株)デンソー

「私の生産技術業務」

OB の方々のお話は、ちょうど就職や将来について考え始めた学生たちにとって、とても有意義だったようです。参加学生たちの意見・感想の一部をご紹介します。

技術者としての心構えや、身につけるべき能力など、とても参考になった。

特に、一番不安な時期である入社してすぐの話は、我々にとって、入社のとときの雰囲気がかかるだけでも、とても勉強になった。こういった企画は今後続けていった方がよいと思う。

『『できない』という結論を出すのは最も困難なことである』『夢は追い続ければ実現できる』『技術者は手を汚せ』などの言葉に共感をもった。

実際に企業で働いている方々のお話を聞く機会を得て、どのようなことが自分に必要なのか、疑問が晴れた。とてもよい経験だった。これからもこのような会を開催してほしい。

就職後に後悔しないように時間のある大学生のうちにもっといろいろな努力をするべきだと思いました。

非常に熱心に聞き入る百数十名の後輩学生たちを前にして講演する OB の方々が、とても嬉しそうに、また楽しそうであったことも印象的でした。今後とも、この会を開催したいと思っています。ご協力いただける OB の方(とくに 20・30 歳台のフレッシュな OB の方) ぜひご一報ください。

学生会担当：

講師 石野洋二郎(ishino@megw.mech.nitech.ac.jp)

助手 林 高弘(hayashi@megw.mech.nitech.ac.jp)

### < 学内人事異動 >

名古屋工業大学機械工学科、大学院都市循環システム工学専攻等・機械系講座において、つぎの人事異動がありました。

平成 13 年 4 月 1 日付

教授着任 江尻 典雄

助教授着任 横田 和彦

平成 13 年 5 月 16 日付

助手着任 西村 尚哉

平成 13 年 7 月 1 日付

附属図書館長併任 川嶋 紘一郎

講師昇任 西田 政弘

平成 13 年 10 月 1 日付

教授転出(東北大学大学院)・併任 山口 隆美

平成 13 年 11 月 1 日付

助教授昇任 糸魚川 文広

平成 14 年 2 月 16 日付

教授着任 田中 俊一郎

平成 14 年 3 月 31 日付

定年退官 中林 巧一

定年退官 松原 十三生

定年退官 水野 高爾

教授転出(名古屋大学) 長谷川 達也

### < 卒業式 >

平成 14 年 3 月 22 日に卒業式が挙行政され、学部機械工学科では第一部 140 名および第二部 26 名が卒業証書を、大学院生産システム工学専攻および都市循環システム工学専攻の機械系講座では 86 名が修了証書を、9 名が学位記を手に入れました。(なお、H.13.9.30 卒業者は第一部 2 名、第二部 1 名、H.14.3.31 卒業者は第一部 4 名でした)

機械工学科卒業生三賞受賞者

機械工学科卒業生の中で、学業成績が優秀な下記の 9 名に対して各賞が贈られました。

名古屋工業会賞

第一部 奥村 毅, 山森 啓太郎

第二部 竹内 悠一

日本機械学会 島山賞

第一部 佐藤 明, 小原 良和

第二部 宮坂 真也

巴会賞

第一部 飯見 篤史, 大澤 拓也

第二部 渡邊 大輔

## ～ Voice of Students ～

### 「わかること」

修士 2 年 山田智久

今の学生はおとなしいとよく耳にします。議論をする経験が少なかったためか、質問の時間があるのに質問が出ないことが多いのです。私も質問をすることが苦手な人間でした。

私には、こんなこと分らないのかと相手に思われることを怖がる、恥ずかしいといった気持ちがありました。しかし、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という言葉があるように、質問して分かるようにするべきでした。また、恥ずかしい話ですが、何が分からないのか、分からないということがありました。よく聴き、よく考えていなかったことの表れであり、反省すべきことです。

名工大機械工学科OBの方から次のような言葉を聞きました。

「自分が分かっているところと、分かっていないところがどこかを判別できなければ、分かっていないことが分かるようにはならない。」

私は研究室に入り、話し合うことができました。人の話をよく聴き、分からないところは聞くことを心がけるようになりました。分かっていないことを分かるようにすることが研究なので、研究をする者にとって、分からないことを把握することはとても大事なことです。私の行っているトライボロジーの研究は機械系

だけでなく、多くの分野が絡んでくる研究であり、私が理解していないことがまだまだあります。日々勉強です。私は自作の装置で実験をし、現象をつかみ、自作のソフトによるコンピュータシミュレーションが可能になるように研究しています。計算機によるシミュレーション、CAEを行うにはいかなる原理でその現象が生じているのかを知る必要があります。要因が複雑に絡み合う中でそれを実現するには実際の現象を観察する目が必要です。先生方に質問し、意見し、分かることを増やして自分の見識を高めながら、物事を見る目を養いたいと思っています。

現在は大学院へ進学しており、発表の場を頂き、研究の説明を行うことが多くなりました。人に伝えるための表現する力、相手を説得する力が足りないことを実感しています。自分の研究内容について興味をもって聞いて頂き、理解して頂けるように話すことが課題となっています。名工大に3号館が完成します。新たな環境でより一層がんばろうと決意しています。

### < 巴会ソフトボール大会 >

去る7月19日、巴会ソフトボール大会が千種グラウンドにて開催されました。今回は21チームの参加により熱戦が繰り広げられました。接戦の末、川嶋研究室のチームが優勝、辻研究室のチームが準優勝、藤本研のチームが3位でした。表彰式は3月22日に巴会主催機械工学科卒業記念パーティーの中で行われました。

(川嶋研：中村)

## < 予告 > 平成 14 年度 巴会理事会・総会 議題資料

(1)平成 14 年度役員名簿(案)

会長：岡村 鐘雄(日本特殊陶業会長)

副会長：学外・塩見 正直(アラコ会長)

学内・太田 安彦(教官)

理事：星野 三郎(S35, 関東支部長), 福竹 泰彦(S43F, 関西支部長), 成田 政敏(S35), 江崎 俊夫(S38), 下田 勝義(S38), 稲田 雅己(S39), 小林 明彦(S40), 長谷川 吉正(S43), 尾針 幸雄(S45), 大西 一(S49), 新美 重秋(S50), 中山 喜敬(S53), 汲田 邦彦(S56), 仙石 武弘(S59), 浅野 弘揮(H01), 大島 成通(H02), 澤田 好史(H06), 川嶋 紘一郎, 伊藤 基之, 小島 之夫, 土田 陽一, 田川 正人, 森西 洋平, 佐野 明人, 横田 和彦, 山田 学, 早川 伸哉, 林 高弘(以上教官)

監事：坂本 衛治(S23), 辻 俊博(教官)

名誉会長：下山 鎮一

最高顧問：山田 豊

特別顧問：金原 淑郎

顧問：小出 謙(S16A), 西坂 誠三(S16A), 岩月 央(S19-9A), 中村 武彦(S20-9A), 中谷 宗三郎(S20-9A), 可知 賢次郎(S22D), 佐藤 真吉(S22D), 船橋 鉦一(S28F), 山中 由男(S29F), 石川 宏(S30F), 大河内 禎一(S31F), 木村 金治(S35F)



卒業パーティ  
風景

## (2) 平成 13 年度事業報告 (案) および平成 14 年度事業計画 (案)

|      | H13年度事業報告                                                                                                                         | H14年度事業計画                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会報   | 「ともえ」No. 35 発行 H13.5                                                                                                              | 「ともえ」No. 36 発行 H14.5                                                                                        |
| 総会   | 名古屋工業大学 3号館2階 M3教室 H13.6.23                                                                                                       | 名古屋工業大学 3号館2階 M3教室 H14.6.22                                                                                 |
| 講演会  | 名古屋工業大学 3号館2階 M3教室 H13.6.23<br>講演者 名古屋工業大学機械工学科<br>松原十三生 教授                                                                       | 名古屋工業大学 3号館2階 M3教室 H14.6.22<br>講演者 ライフクリエイション株式会社<br>代表取締役社長 竹村 健氏                                          |
| 懇親会  | 名古屋工業大学大学会館1階 H13.6.23                                                                                                            | 名古屋工業大学大学会館1階 H14.6.22                                                                                      |
| 支部   | 1. 関西支部総会・懇親会 H13.9.29<br>2. 関東支部秋の集い H13.11.13                                                                                   | 1. 関西支部総会・懇親会<br>2. 関東支部秋の集い H14.11.12                                                                      |
| 学内事業 | (1) 新入生歓迎会 H13.4.12<br>(2) ソフトボール大会 H13.7.19<br>(3) OB は語る会 H13.11.27<br>(4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー<br>H14.3.22<br>(5) 院生学会出席補助 (20件) | (1) 新入生歓迎会 H14.4.11<br>(2) ソフトボール大会 H14.7<br>(3) OB は語る会<br>(4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー<br>H14.3<br>(5) 院生学会出席補助 |
| 会議   | 理事会 (2回延べ40名)<br>担当理事会 (1回4名)<br>名簿委員会 (1回5名)                                                                                     | 理事会<br>各種委員会                                                                                                |

## (3) 平成13年度 会計報告案(2001.4.1~2002.3.31) (4) 平成14年度 予算案(2002.4.1~2003.3.31)

## [一般会計]

| 収入        |             | 支出        |           |
|-----------|-------------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金    | 2,353,875   | 会報発行発送費   | 805,796   |
| クラス会費     | 582,400     | 支部補助      | 300,430   |
| 終身会費      | 1,313,520   | 総会/講演/懇親会 | 222,314   |
| (卒業生 54名) | (1,073,640) | 学内事業補助    | 541,380   |
| (在学生 21名) | (219,880)   | 名簿整備費     | 272,170   |
| (教官会員 1名) | (20,000)    | 会議費       | 69,355    |
| 総会懇親会参加費  | 220,000     | 事務通信費     | 149,774   |
| 未収会報広告代   | 40,000      | 雑費        | 1,197     |
| 受取利息      | 417         | 次年度へ繰越    | 2,147,796 |
| 合計        | 4,510,212   | 合計        | 4,510,212 |

## [一般会計]

| 収入        |           | 支出        |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金    | 2,147,796 | 会報発行発送費   | 900,000   |
| クラス会費     | 530,000   | 支部補助      | 300,000   |
| 終身会費      | 1,200,000 | 総会/講演/懇親会 | 250,000   |
| (卒業生 40名) | (800,000) | 学内事業補助    | 800,000   |
| (在学生 40名) | (400,000) | 名簿整備費     | 650,000   |
| 総会懇親会参加費  | 250,000   | 会議費       | 150,000   |
| 受取利息      | 300       | 事務通信費     | 100,000   |
|           |           | 雑費        | 100,000   |
|           |           | 予備費       | 878,096   |
| 合計        | 4,128,096 | 合計        | 4,128,096 |

## [奨学会計]

| 収入       |           | 支出     |           |
|----------|-----------|--------|-----------|
| 前年度繰越金   | 2,056,512 | 巴会賞    | 57,204    |
| 受取利息     | 3,053     | 次年度へ繰越 | 2,062,361 |
| 基金会計から補助 | 60,000    |        |           |
| 合計       | 2,119,565 | 合計     | 2,119,565 |

## [奨学会計]

| 収入       |           | 支出     |           |
|----------|-----------|--------|-----------|
| 前年度繰越金   | 2,062,361 | 巴会賞    | 60,000    |
| 受取利息     | 2,000     | 次年度へ繰越 | 2,064,361 |
| 基金会計から補助 | 60,000    |        |           |
| 合計       | 2,124,361 | 合計     | 2,124,361 |

## [基金会計]

| 収入     |            | 支出      |            |
|--------|------------|---------|------------|
| 前年度繰越金 | 23,699,580 | 奨学会計へ補助 | 60,000     |
| 受取利息   | 17,455     | 次年度へ繰越  | 23,657,035 |
| 合計     | 23,717,035 | 合計      | 23,717,035 |

## [基金会計]

| 収入     |            | 支出      |            |
|--------|------------|---------|------------|
| 前年度繰越金 | 23,657,035 | 奨学会計へ補助 | 60,000     |
| 受取利息   | 15,000     | 次年度へ繰越  | 23,612,035 |
| 合計     | 23,672,035 | 合計      | 23,672,035 |

<お詫び> 一部の終身会員の方へ終身会費納入のお願いを発送し、ご迷惑をお掛けしました。深くお詫び申し上げます。

## 平成 14 年度巴会理事会・総会のご案内

日時：平成 14 年 6 月 22 日(土)

場所：名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室

理事会・総会 14:00～14:50

講演会 15:00～16:00

演題：「さなげアドベンチャーフィールド」事業化から  
学んだこと

講師：ライフクリエイション株式会社  
代表取締役社長 竹村 健 氏

懇親会 16:10～（大学会館 1 階にて）

会費：0B 5,000 円 学生 500 円（懇親会に出席される方）

申込：クラス代表者へお申し込み下さい。（当日受付可）

なお、S40 年以降卒業の方は直接巴会本部へ

ハガキまたは FAX にて 6 月 7 日までに

お申し込み下さい。

電話：052-735-5339 水野 直樹 先生

FAX：052-735-5342

名工大地図(pdf では省略)

自家用車の乗り入れはご遠慮下さい。

### ・巴会運営だより・

平成 13 年度理事会・総会が 6 月 23 日新設された 3 号館にて開催され、新会則を含め、会報「ともえ」35 号に掲載の全議案が承認されました。今後の巴会運営の中心となります理事には、多くの若手の皆さんを学内、学外よりお迎えし巴会の活性化が図られて行くものと期待されます。また、巴会を支えられてこられた方々には顧問にご就任戴いております。今後とも巴会発展のためご指導ご鞭撻をお願いします。

理事会が 9 月 8 日、平成 14 年 4 月 3 日に、また、担当理事会が 10 月 20 日に開催され、名簿委員会が発足し、第一回の委員会を 12 月 8 日に開催し、平成 15 年 12 月を目処に活動が開始されました。卒業生名簿は正しい住所記載が不可欠、多くの方々のご協力ご支援をお願い致します。

平成 14 年 3 月 22 日、巴会庶務担当理事水野、学生会担当理事石野両先生の呼びかけで 200 名を超える卒業生に対し巴会賞授与式、卒業パーティーが 3 号館ピロティーで学生会会長の司会で開催。太田副会長より 3 名の卒業生に賞状と記念品が渡された。オープンスペースでの 2 度目の試み。巴会の名物行事になることを期待。

巴会ゴルフコンペ第 6, 7 回 10 / 27、3 / 23 いずれも鳴海 CC で開催しました。（S35 成田政敏）

### ・あ と が き・

「ともえ」36 号をお届けします。

昨冬の寒暖差の激しさに驚いていましたが、今冬は、激しさにさらなる拍車がかかったようです。これも地球温暖化のせいでしょうか、桜も 1 週間から 2 週間も早く満開を迎えてしまいました。昨今、食べ物には年がら年中何でも食べられ、季節感が薄弱となっているうえ、気候までこれでは日本の美しい四季の変化が失われるのでは、と寄寓しております。

何時もながら新聞紙上を賑わしている政・官の乱れは何でしょう。国民不在の為政者たちに憤りを感じているのは私だけでしょうか。「政治家が官庁に働きかけるのは悪いことではない」と言われます。その通りとは思いますが、議員に国家・国民への思いがあればの話です。地元の票ばかりの頭じゃ嘆かわしいことこの上なし。

それにもう一つ、親の幼児・児童に対する暴力・虐待。悲しいことばかりです。日本人の道徳心はどこへ吹っ飛んだんでしょう。新聞を読むたびに愚痴ばかりです。（年のせい？）

最後になりましたが、「巻頭言」執筆の塩見新副会長、「関東・関西支部便り」の関東・関西両支部長、「講演会報告」の松原先生、「学内報告」等担当の各先生方、また本号に編集にご尽力頂いた方々に深く尽謝致します。（S38 下田勝義）